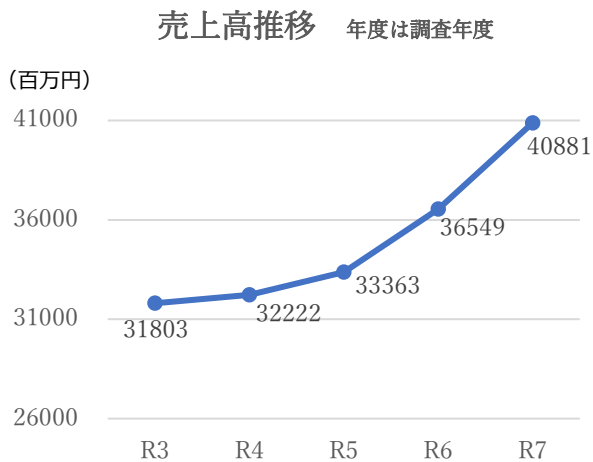


ソフト系 IT 企業実態調査結果概要 (令和 7 年度版)

1. 調査対象：協会会員社及びソフトビジネス研究会会員社等
有効回答社：80 社（非 IT 企業を含めた全有効回答社 83 社）
売上に関する有効回答社（IT）：68 社、経常利益に関する有効回答社（IT）：62 社

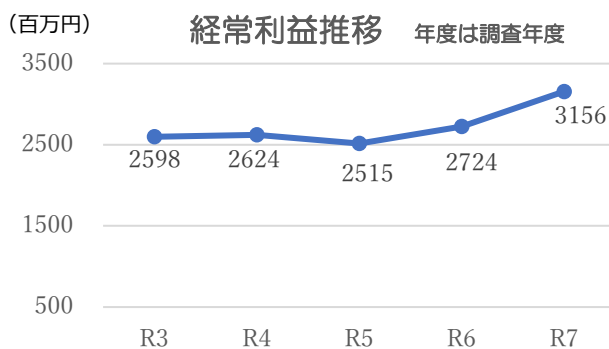
2. 主な調査結果（以下数値はソフト系 IT 企業分）

(1) 売上



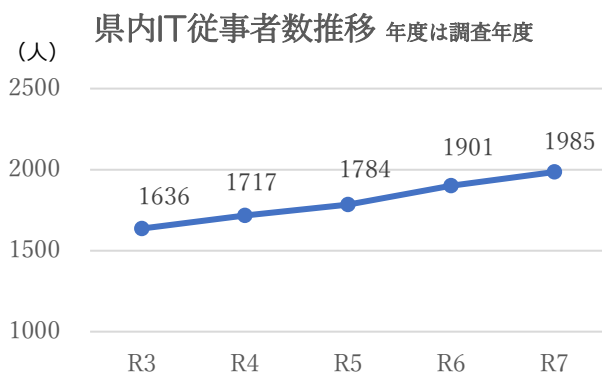
売上額は、対前年売上増加企業数が昨年 の 39 社から 47 社へ増加し、前年比 11.9% 43 億円増加の 409 億円となった。過去最高値を引き続き更新している。各産業分野における DX の取り組みなど IT に対する旺盛な需要が背景にある。なかでも、従事者規模が大きい企業における売上げ増加が顕著である。

(2) 利益



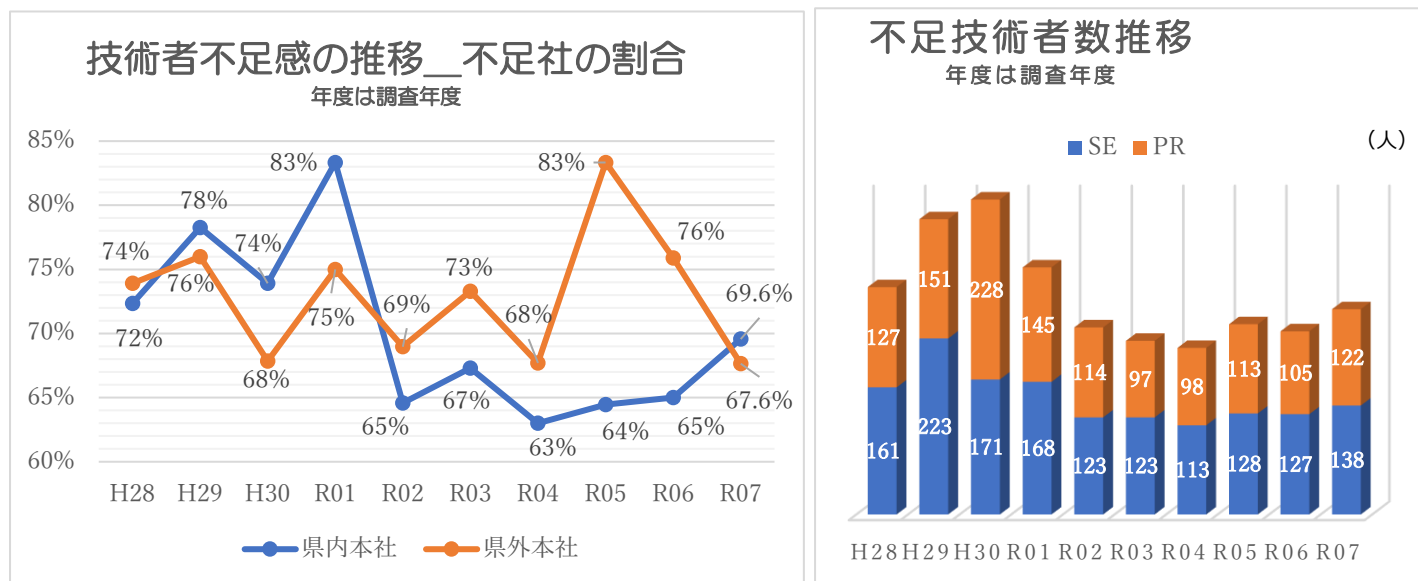
経常利益は、前年比 15.9% 増加の 32 億円であり、調査開始来の最高値を更新した。諸経費が統廃するなか、好調な売上を背景に、各企業の経営努力により利益確保がされたものと考えられる。

(3) IT 従事者数



県内 IT 事業従事者は、前年比 4.4% 84 人増の 1,985 人となり、過去最高値を更新した。慢性的な技術者不足で採用意欲が高く、各社の人材確保にむけた積極的な取組があったものと考えられる。

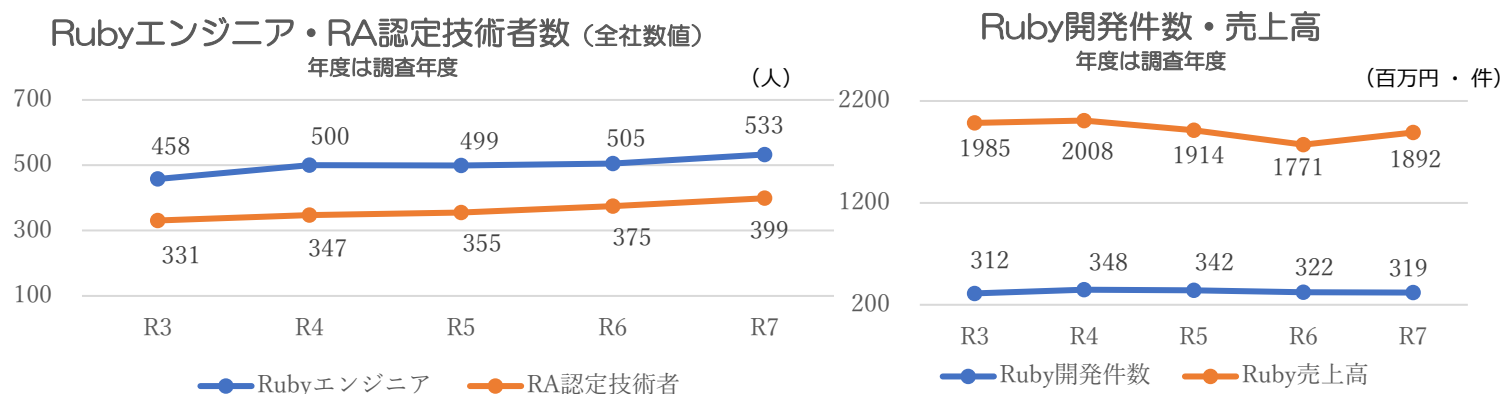
(4) 人材不足感



調査に応じた IT 企業が不足と感じる技術者数は、システムエンジニア 138 人、プログラマー 122 人の計 260 人で、28 人増加となった。DX の取り組みを背景に IT 人材確保の動きが各産業に広がっていることがあるとみられる。

なお、県外本社企業での不足感の急激な低下は、分子となる不足数は増えているものの、分母となる有効回答数が相対的に増えたためである。

(5) Ruby 関連



非 IT 企業を含め Ruby エンジニア総数は 533 人で 28 人の増加となった。Ruby アソシエーション (RA) 認定技術者は、24 人増加の 399 人である。IT 企業における Ruby によるシステム開発件数でみると、やや減少傾向にあるが、開発売上は 6.8% 増加の 19 億円である。

なお、Ruby 開発件数 319 件のうち、松江圏域で 202 件、出雲圏域 114 件を占める。